

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077300160
法人名	有限会社 ユリックス
事業所名	グループホームゆり苑
所在地	福岡県うきは市吉井町生葉705-1 (電話) 0943-75-9520

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年7月5日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】 (平成19年6月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂本内科医院、田主丸中央病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の広がる広い敷地に佇んでいる平屋和風造りの事業所は、落ち着いた静かな環境で、ゆっくりとした時間が流れている。施設長、管理者、職員全員が”利用者が地域の中で尊厳をもって、ゆとり、ゆっくり、ゆっつりの生活が送れるように”の「三ゆり運動」の理念を合い言葉に、利用者主体の日々のケアに取り組んでいる。また家族会だけでなく、利用者独自で「結いの会」が結成され、そこでの要望や意見を事業所の運営に反映する仕組みがあり、地域に密着した家庭的な支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題を全職員で協議し、入浴支援、市町村との関わりや水分摂取量の把握等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で協議し、フロア責任者が意見をまとめ、自己評価の作成に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	出席者からの意見・要望を十分に聴き、地域と積極的に交流を図る等、運営や介護の質の向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会や利用者で結成している「結いの会」で意見や要望が活発に出され、それを運営に反映している。玄関や廊下に意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明示し、利用者及び家族に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員及び利用者は、地域の道路掃除や行事等に参加し、地域との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が地域の中で尊厳をもって、ゆとり、ゆっくり、ゆったりの生活が送れるように」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について周知徹底を図っている。また、ユニット毎の理念も職員で話し合い作成し、日常的に朝会で唱和して理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員及び利用者は、地域の道路掃除や行事等に参加し、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で協議し、フロアー責任者が意見をまとめ、自己評価の作成に取り組んでいる。前回評価での改善課題を全職員で協議し、入浴支援、市町村との関わりや水分摂取量の把握等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。委員からの意見・要望を十分に聴き、地域と積極的に交流を図る等、運営や介護の質の向上に活かすよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と積極的に連携を取り、運営や現場の実情の相談をしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料に基づいて制度に関する学習会を開催し、職員の周知を図っている。利用者家族には、入居時等に情報提供している。パンフレットも設置している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当職員から家族へ、ホーム便りや利用者の日々の暮らしぶり、健康状態等を記した手紙を同封し、報告している。金銭管理については、家族の来訪時に金銭出納帳を確認してもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や利用者で結成している「結いの会」で出た意見や要望を、運営に反映している。玄関や廊下にも意見箱を設置している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化する事で、馴染みの関係を大切に、利用者に不安を与えない配慮をしている。新任職員は利用者と同顔馴染みになるよう、積極的なコミュニケーションを心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 職員は適材適所で能力が発揮できるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育に関する外部研修を受講している。受講後は資料等を全職員へ配布し、報告の場を設けて、全職員で研修内容を共有するよう努めている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事務室に研修日程表を掲示して希望を募り、勤務編成等を考慮し、職員の育成を行っている。また、受講後は報告の場を設け、全職員で研修内容を共有するよう努めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政の協力を得て、他事業所と協働して地域のブロック介護事業連絡会を立ち上げている。管理者や職員は、連絡会にて研修や講演会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人及び家族との事前面談や事業所の見学を行いながら、職員や他の利用者と馴染める時間をつくる等の工夫をしている。また、除々に馴染むことができるよう本人の居室に家族と一緒に宿泊するなどの配慮も行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は調理方法を聞いたり、花と一緒に活ける等し、日常的に支え合う関係を築いている。また、職員は利用者からの労いの言葉等を受け止め、多くの事を学んでいる。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自の心身の情報（私の気持ちシート）で、利用者・家族からの思いや暮らし方の希望などを聴きながら、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護記録から課題を見出し、全職員でカンファレンスを行い、利用者、家族の意見も反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の見直しを基に、また状況の変化に応じて現状に即した介護計画の見直しをしている。利用者、家族の意見等を記録し、家族が了承した押印もある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、早期退院に向けて、事業所は利用者・家族・医療関係者と連携を図り、早期退院に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望するかかりつけ医への受診時は、家族の協力のもと職員も同行している。またかかりつけ医の往診もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について利用者及び家族が事業所の独自シートの項目で確認して、利用者の終末期に向けた方針を職員を含めて全員で共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重した対応をしている。職員は個人情報保護について学び、守秘義務の徹底も図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切にし、職員の都合等を優先するのではなく、利用者の希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で獲れた玉ねぎの皮剥きを利用者に手伝ってもらう等、ともに食事作りをして、利用者と職員が同テーブルで同じものを食べ、楽しい食卓を囲んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて、毎日一人ひとりがゆっくり入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意な分野での役割があり、菜園造り、編み物、書道、計算ドリル、家事等の支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	菜園造り、買い物、散歩、四季折々の花見やドライブ等、一人ひとりのその日の希望にそって、外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関に設置したセンサーやカメラだけでなく、職員の連携で利用者を見守っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路のマニュアルを整備している。年2回、消防署の指導のもと避難訓練も実施しているが、地域の人々の協力を得られるよう働きかけていない。非常食は、缶詰等、一部準備している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備については、整備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取量と水分摂取量を毎食ごとに記録している。栄養士の指導によりバランス、量に配慮した献立になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを設置し、利用者は好きな場所で思い思い過ごしている。共用空間の畳の間には、冬時期にコタツを設けている。壁には、利用者の作品や利用者と職員で活けた花が随所に見られ、心和む工夫がある。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷き、ベッド、テレビ、箆笥、仏壇等、利用者の使い慣れた備品を持ち込んでおり、居心地良く過ごせる居室になっている。		

※ は、重点項目。